

授業科目及び時間数	高齢者の症状に応じた看護 1単位 30時間		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	田村万寿美	実務経験	有
<p><科目のねらい></p> <p>1年次に学んだ解剖生理学・病態治療論を踏まえ高齢者に特徴的な症状を中心に学び、患者の生活・生命の質（QOL）を最大にすることを目的とした総合的・包括的な医療・看護の提供につなげられることをねらいとした単元である。</p> <p>世界に類をみない「超高齢社会」を迎え、多臓器の機能が脆弱化していく老化という過程により複数の疾患をあわせもつことが多く、それらは完治しないことも多い。それらに付随する高齢者の特徴的な症状について学習する。</p> <p><到達目標></p> <p>1. 高齢者の特徴的な症状を理解し、看護につなげる。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1 老化と寿命	講義	
2回目	1. 認知・知覚機能の老化	講義	
3回目	1. 呼吸・循環・消化・吸収・代謝機能の老化	講義	
4回目	1. 排泄機能・免疫・運動機能の老化	講義	
5回目	1. 認知機能障害のある高齢者の看護（うつ・せん妄）	講義	
6回目	1. 認知機能障害のある高齢者の看護（認知症）	講義	
7回目	1. 認知機能障害のある高齢者の看護（認知症ビデオ鑑賞）	講義	
8回目	1. 症状のアセスメントと看護（意識障害）	講義	
9回目	1. 症状のアセスメントと看護（発熱）	講義	
10回目	1. 症状のアセスメントと看護（痛み・痒痒）	講義	
11回目	1. 症状のアセスメントと看護（脱水・嘔吐）	講義	
12回目	1. 症状のアセスメントと看護（浮腫）	講義	
13回目	1. 症状のアセスメントと看護（褥瘡・スキンケア）	講義	
14回目	薬物療法と看護	講義	
15回目	終了試験		
評価方法	筆記試験（100%）		
受講生に対するメッセージ	解剖生理学・病態治療論での学びに、老年期の特徴を併せた積み重ね学習になります。1年次の復習を行い、しっかり準備して授業に臨んでください。		
テキスト	系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾病論 医学書院		
参考書	なし		